



学校だからこそできる学び

校長 町田 大樹

「校長先生、見て見て！」

授業中に教室や廊下をまわっていると、時々子どもたちから声をかけられます。図工でダイナミックな作品を作っている子、漢字ドリルを丁寧に書いている子、絵や習字に集中して取り組んでいる子、それぞれのクラスで行っている学習は様々ですが、目を輝かせながら話しかけてくる馬場っ子の人懐っこさや話を聞いてほしいという思いは常にまっすぐで、本当に素敵です。子どもたちの輝く表情は学校にとって宝物です。

先日のテレビ朝会では蒔田晋治さんの『教室はまちがうところだ』の詩を紹介しました。その一部を紹介します。

教室はまちがうところだ

教室は まちがうところだ
みんなどしどし 手をあげて
まちがった意見を 言おうじゃないか
まちがった答えを 言おうじゃないか

まちがうことを おそれちゃいけない
まちがったものを わらっちゃいけない

まちがった意見を まちがった答えを
ああじゃないか こうじゃないかと
みんなで出しあい 言いやうなかでだ
ほんののものを 見つけていくのだ
そうしてみんなで 伸びていくのだ

(後略)



出典：『教室はまちがうところだ』 蒔田晋治・作 長谷川知子・絵（子どもの未来社 2004年）

教室では日々、ドラマや感動があります。間違いや失敗のない、すべて順調な毎日というわけにはいきません。いや、むしろ間違いや失敗は学びのチャンスです。一つの失敗からたくさんの意見や考え方が生まれ、新しい気づきがあります。それは、人が集うからこそできる学びです。失敗があったり、違いがあったりするからこそ、人を認める優しさも育まれます。自分の考えをおもいっきり表現できる、学ぶことが楽しい、友達といることが楽しい、そうしてみんなで伸びていく、そんな学校でありたいと思います。

5月の家庭訪問ではご都合をつけていただきありがとうございました。短い時間の訪問となりましたが、これからも保護者の皆様と信頼関係を築きながら、お子さんの成長に関わっていきたくと思います。また、新しい学習の一形態として準備が進められているオンライン接続確認へのご協力にも感謝申し上げます。

6月から始まる水泳学習は5・6年生に限定して実施させていただくことにしました。いつもできていたことができない苦しさは続きます。しかし、新しい取り組みも含め、子どもの学びを止めない道をこれからも探っていきます。保護者の皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。